修復報告　大野麦風　屏風「識名園」

仲村　美奈子　　當間　巧

はじめに

沖縄県立博物館・美術館が所蔵する作品は、沖縄の気候風土に照らして、その保存管理状態が適切ではない状態で収集された作品が多く、開館当初から展示可能な状態ではない作品も少なくない。絵画作品は油絵多く、日本画は版画を除いて現在２点のみである。

この作品は、平成15年に購入されたが、収集段階から、作品画面上に破れ、しみ、欠損があり展示可能な状態ではなかったため、平成21年度修復することにした。ここにその修復報告を記す。

大野麦風　屏風「識名園」について

大野麦風、1888（明治21年）～1976（昭和51年）。東京に生まれる。関東大震災後、関西に移住。魚類や植物の観察を通した日本画を得意とする。彼が原画を手掛けた『大日本魚類画集』（昭和12年～19年制作）は、代表的な日本の海水、淡水魚の図が100種ほど収録されている。魚類学者、田中茂穂と上田尚の解説付きで、題字は谷崎潤一郎である。

屏風「識名園」は、1934年（昭和９年）の作品で、二曲一隻の屏風である。画中画の屏風に識名園の庭園が描かれており、その屏風の前で、三線と琴を奏でる琉球装の3名と琉球舞踊衣裳姿の女性が扇子を持って舞っている。

本紙には糊浮きが生じ、全体的に染み、汚れ、また絵具の剥落、亀裂、破損が見られた。また、オゼ折れ曲がり部分が切れ、欠損、破損も見られた。

そのため、このまま放置しておくと、本紙及びオゼ部分の亀裂破損の進行を及ぼし、本紙絵具の剥落の拡大を招き、絵画性を損なう事となり、また屏風としての展示や開閉の妨げにもなる状態であった。

修復方針

次のような工程で作業を行うことにした。

１．写真撮影を行い、本誌の状態を調査する。
２．絵の具の安定を計るため、剥落止めを行う。
３．長期的な保存を考え、本紙を上質の強い和紙を使用し裏打ちする。
４．本誌の破損箇所に補修施す。
５．長期的な保存を考え、杉材下地・木縁を新調する。

修復作業内容

１．状態調査

修復前にデジカメ写真撮影、赤外線撮影を行い本紙の状態を調査した。

写真01：修復前・屏風写真
02：赤外線撮影写真
03：赤外線撮影部分写真
04：修復前・本紙部分、染み・汚れ箇所写真（３枚）
05：修復前・本紙部分、亀裂・破損箇所写真（２枚）
06：修復前・オゼ折れ曲がり部分、欠損、破損

２．屏風装の解体

木縁を取り外し、本紙を下地から捲り取り、屏風装を解体した。

写真07：木縁取り外し作業
08：本紙を下地から捲り取る作業
09：解体作業後、本紙裏写真

３．剥落止め

薄膠溶液を用い、絵具の剥落止めを行った。

写真10：絵具の剥落止め作業

４．汚れの除去

汚れの除去を試み、作業は本紙を傷めない範囲にとどめた。

本紙繊維組成（高知県紙産業技術センターに本紙繊維組成を依頼）

５．本紙を養生紙で表打ちし、裏面を向け旧浮紙、旧裏打ち紙を捲り取った。

写真11：旧浮紙の除去作業

12：旧裏打ち紙の除去作業

6．破損部分の補修

三椏紙を用い亀裂、蝶番破損部分の補修、を施した。糊は小麦粉澱粉糊（新糊）＊を用いた。

写真13：蝶番破損部分の補修作業

14：作業後

7．本紙の亀裂、破損部分の補修

写真15：本紙亀裂、破損部分の補修作業

8．本紙の裏打ち

五箇山悠久紙（富山県）を用い、本紙の裏打ちを行った。裏打ち紙は天然染料、矢車で染色、炭酸カルシウム溶液で媒染、糊は新糊を使用した。

写真16：本紙の裏打ち作業

9．長期的な保存を考え、適切な強度をもたせるため、二度の裏打ちを施した。糊は新糊を使用し裏打ち後、仮張りを施した。

写真17：本紙二度目の裏打ち作業

18：裏打ち作業後、仮張り乾燥中写真

10．杉材下地、黒塗艶消し木縁を新調した。

写真19：新調した杉材下地写真

11．五箇山悠久紙（富山県）と石州紙（島根県）を用い、下地に、骨縛り、胴張り、二枚蓑掛け、蓑縛りの各下張りを施した。糊は新糊を使用した。

写真20：下地の骨縛り

21：胴張

22：二枚蓑掛け

23：下地の蓑縛り

12．下地に蝶番を組んだ後、表・裏二重の泛を施した。紙は栃木那須楮、美濃紙を用い、糊は新糊を使用した。

写真24：下地に蝶番の取り付け作業

25：表・裏二重の泛張り作業

13．下地に本紙、裏紙を張り込む。糊は新糊を使用した。

写真26：下地に本紙張り込み作業

14．新糊を用い、奥オゼを張り込んだ。

写真27：下地に裏紙の張り込み作業

15．新調した木縁をおよび飾り金具を取り付け屏風装を完成させた。

写真28：木縁の取り付け作業

16．木綿の保護袋に包んで、ダンボール箱に収納保存した。

写真29：修復後・屏風写真、：分割写真（２枚）

30：修復後・本紙部分（３枚）

＊写真04参照

31：修復後・本紙部分（２枚）

＊写真05参照

＊水：小麦粉澱粉糊を３：１の割合で約25分煮溶かした物を（新糊）とし、作業に応じた希釈率で使用。新糊は伝統的に接着剤として使用されており、比較的退色が少なく、可逆性あり、乾燥後の変色も少なく十分な接着力が得られることから使用した。

おわりに

今回の修復作業中、本紙を高知県紙産業技術センターに繊維組成分析依頼したところ、みつまた繊維と木材パイプ、９：１の混合であることがわかった。

また、本紙を捲り取った旧下地の泛紙、下張り紙には公文書が使用されていることが判明した。

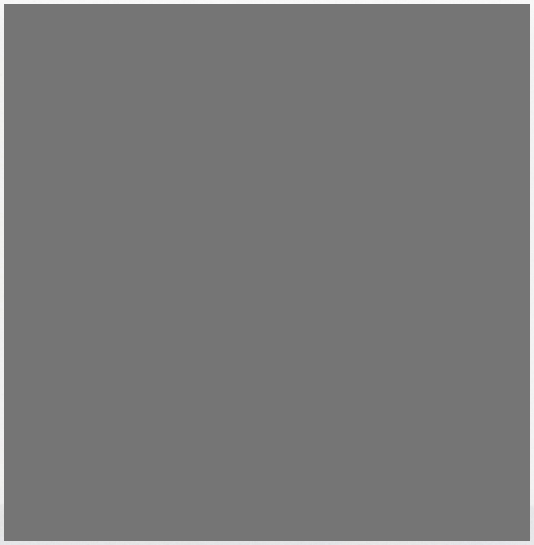
写真32：旧下地01

：旧下地の部分02

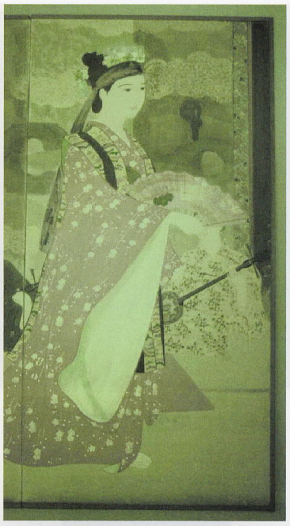
：旧下地の部分（下張り紙）03

：旧下地の部分（右下）04

写真33：旧屏風裏



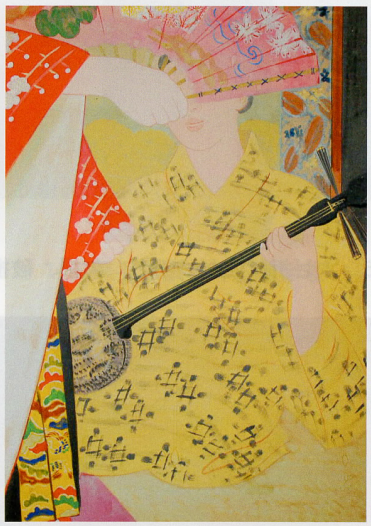
01　修復前・屏風写真



02　赤外線撮影写真



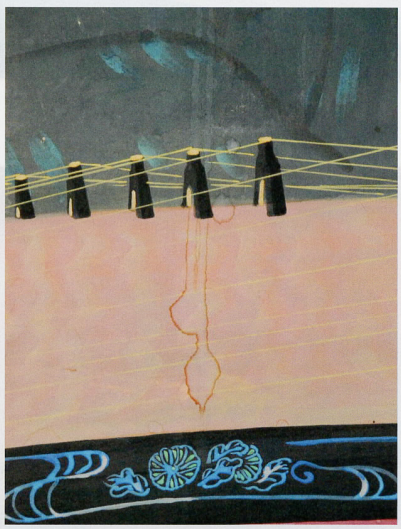
03　赤外線撮影写真



04　染み・汚れ01



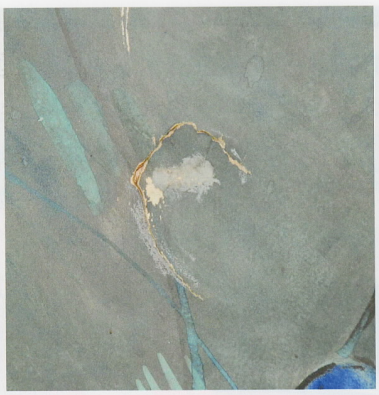
04　染み・汚れ02



04　染み・汚れ03



05　亀裂・破損01



05　亀裂・破損02



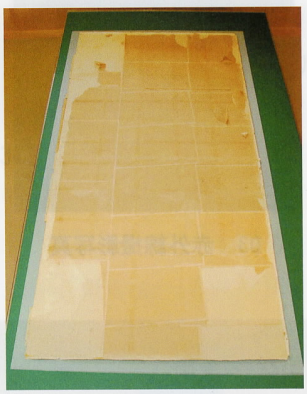
06　オゼ折れ曲がり部分、欠損、破損



07　木縁取り外し



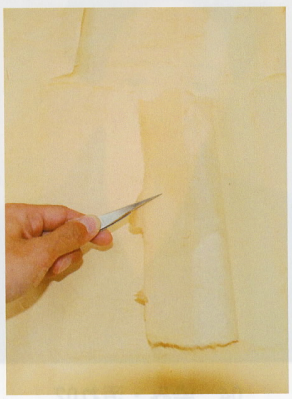
08　本紙を下地から捲り取る



09　解体作業後、本紙裏



10　絵具の剥落止め



11　旧浮紙の除去



12　旧裏打ち紙の除去



13　蝶番破損部分の補修01



13　蝶番破損部分の補修02



14　蝶番破損部分の補修後



15　本紙亀裂、破損部分の補修



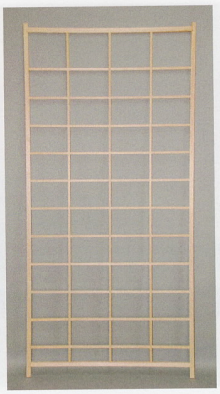
16　本紙の裏打ち作業



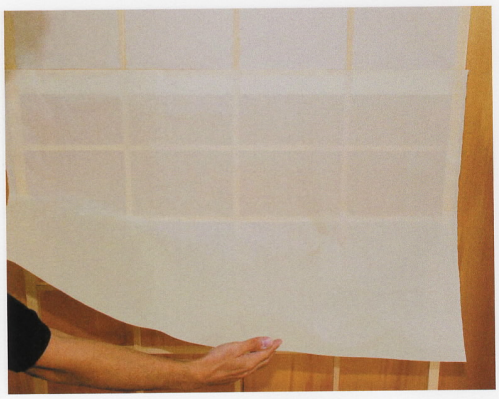
17　本紙二度目の裏打ち



18　仮張り乾燥中



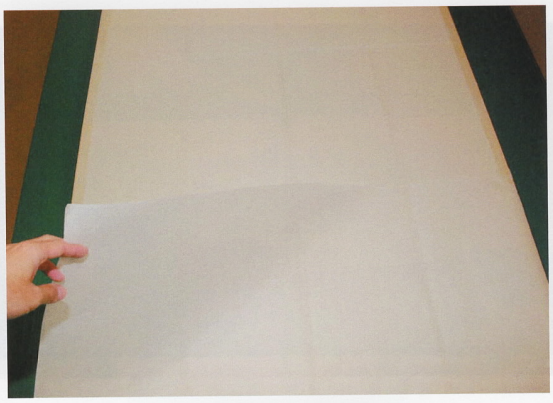
19　新調した杉材下地



20　下地の骨縛り



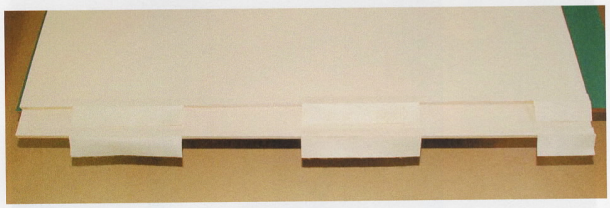
21　下地の胴張り



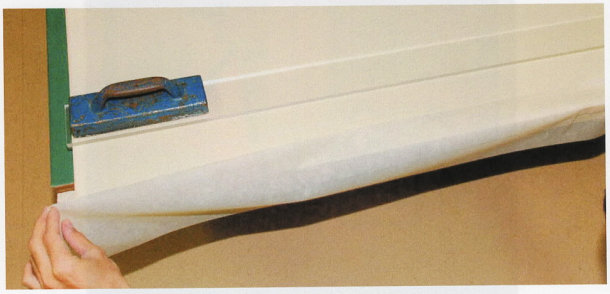
22　下地の二枚蓑掛け



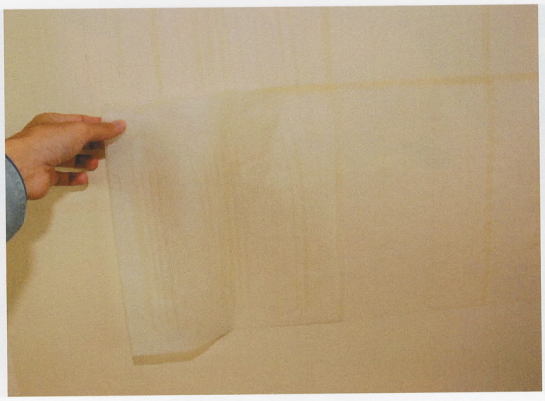
23　下地の蓑縛り



24　下地に蝶番の取りつけ01



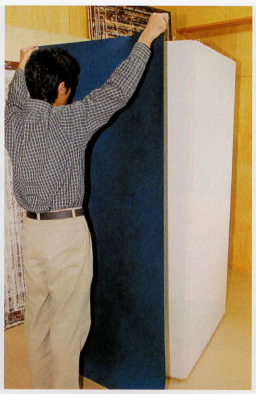
24　下地に蝶番の取りつけ02



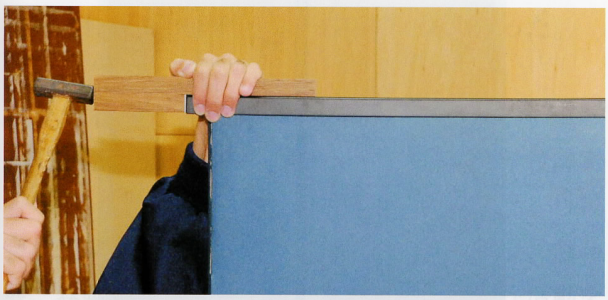
25　表、裏二重の泛張り



26　下地に本紙の貼り込み



27　裏紙の貼り込み



28　木縁の取りつけ



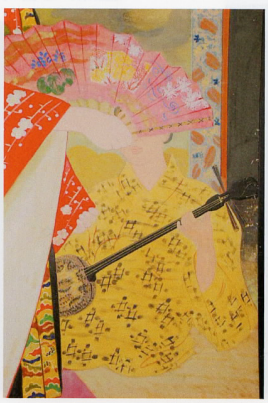
29　修復後・屏風写真



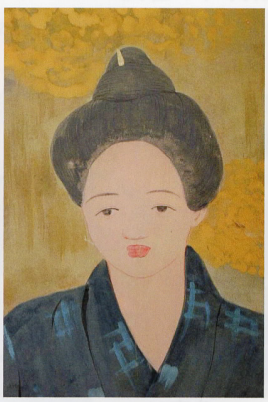
29　修復後・部分01



29　修復後・部分02



30　本紙部分01



30　本紙部分02



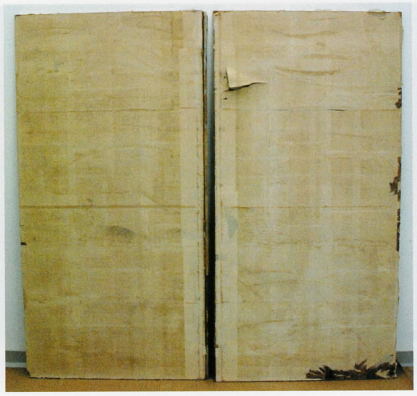
30　本紙部分03



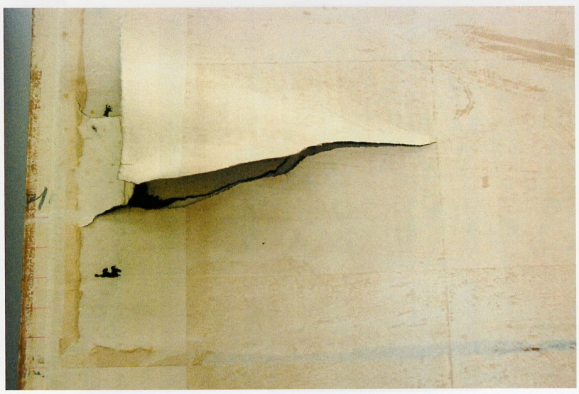
31　本紙部分01



31　本紙部分02



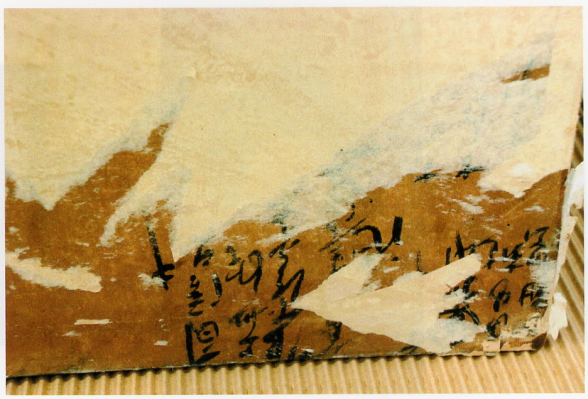
32　旧下地01



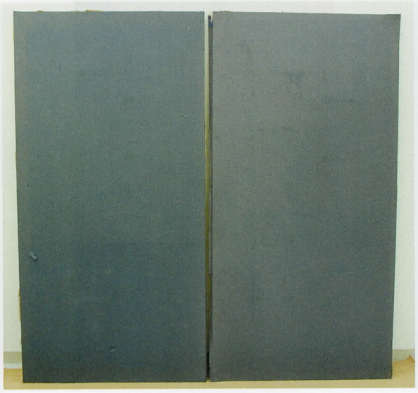
32　旧下地の部分02



32　旧下地の部分（下張り紙）03



32　旧下地の部分（右下）04



33　旧屏風裏